

学校概要

創立 31 周年	学校長 福田 之男	副校長 河野 正美	学期 3 学期制	児童・生徒数	人
学級数 一般級: 9 個別支援級: 2			主な関係校: 高田小学校 高田東小学校		

学校教育目標

学ぶことを通して、自ら課題を形成し、その課題を自ら解決し21世紀を生き抜く力をもった人を育てる。(ストリートスマート、地域リーダーの育成) 子どもたちの自己実現を支援するために次の力をはぐくみます。

- * 自ら学習力の向上に努め、自立的に学び続けていく力(知)
- * 生命を尊重し、心身の健康を維持向上していく力(徳・体)
- * とともに認め合い社会参画に努め、自他および社会を高めていく力(公・開)

学校の特徴

- 学校周辺には農地があり、その周囲に住宅が広がり、自然環境に恵まれ他地域である。
- 小中12人会議、90人会議、校長のランチミーティングなどを実施することにより、小中の連携が密である。
- 平成29年度より小学校併設型中学校に指定されている。
- 年齢層は若い、生徒や保護者に寄り添った対応ができる職員が多い。
- 地域全体で学校を守り発展させようと、PTAを中心に、学校に対して協力的である。
- 生徒は学習への関心や意欲があり、真面目に取り組むが、自信のない生徒が多い。

学校経営中期取組目標

- ・総合的でバランスのとれた学校づくりの実現に向け、教職員相互が啓発・連携し合い学校経営への参加意欲を高めるとともに、組織的・効率的な学校運営に努めます。
- ・生徒一人ひとりが学力の向上を実感でき、価値ある生き方を求めて自己変革していくことを支援するため、教職員の研修を充実し、共通理解を深め理解力・指導力の向上につなげます。
- ・開かれた学校づくりを一層推進し、学校・家庭・地域との連携・協働による学校づくりを進めます。

小中一貫教育の取組

a5 ブロック : 高田中学校 高田小学校 高田東小学校

9年間で育てる子ども像	○ 自らすすんで学び続ける子ども ○ 仲間と協力してよりよい社会の実現を目指す子ども
自校の具体的取組	・学力・学習状況調査の分析を行い、課題を明確にし、授業改善を図る。 ・総合的な学習の時間を活用し、情報収集を行い、考えたことを表現する力を育成する。 ・ICT機器を活用し、生徒の学びへの興味・関心を喚起する。 ・各教科の指導において言語活動の場を単元や単位時間の中で設定し、随時適切な評価を行う。 ・年間2回情報交換のための研究授業を実施する。 ・小学校と連携し、併設型小・中学校の特色を生かし9年間を見通したカリキュラムの編成を行う。

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	基本的な学習態度の習慣化を図る指導とともに、言語活動の場を授業に設定することにより、思考・判断・表現の力を育む。	・全国および市学力・学習状況調査の分析をブロック内3校で協力して行い、ブロックとしての課題を明確にした上で、指導案検討や小中相互の公開授業を行うなど合同授業研修会を活性化させる。 ・生徒向け授業アンケートを継続して実施し、経年変化も含めて分析し、授業改善に役立てていく。
豊かな心	全教育活動で道徳・人権教育を推進し、互いの違いを認め合い、自らの生き方を切り拓き、共に安心して学校生活を送れる生徒を育成する。	・生徒が人権問題に関する視野を広げ、考えを深めることができる授業を目指して、教職員で研修する。具体的には、今年度はLGBT研修を行う。 ・人権作文コンクールに全員が参加することで、人権に対する意識を磨く。 ・福祉委員会による赤い羽根募金活動や愛の光運動、WFP参加呼びかけ、図書委員会と放送委員会が人権週間プログラムを考えて実行するなど、委員会活動を中心として、生徒が人権に対する考えを高めたり、自ら行動できるようにはたらきかける。
健やかな体	自らの心や体の状態を把握し、安全面に留意し、運動の意義や効果について関心と理解を深め、体力向上・運動習慣の改善を自ら目指す生徒を育成する。	・身体の成長や健康について関心をもち、また日々の健康状態を把握し、健康教育や学校保健委員会を通して、規則正しい生活や調和のとれた生活が送れるよう支援を行う。 ・体育の準備ドリル運動や学習カードや部活動から、自分自身の体力を知り、安全に留意しながら体力向上のための活動が行えるよう助言する。
生徒指導	生徒・保護者との信頼関係を深め、生徒理解につなげ、基本的な生活習慣の確立を目指し、共通理解・情報の共有化をすすめ、規範意識の指導に努める。	・YPアセスメントシートを活用し、それを横浜プログラムによる学級活動の充実を図り、生徒が学校を自分の居場所と感じられるようにする。 ・問題行動の指導に徹するのではなく、授業以外の時間を活用して生徒に声掛けをし、生徒と教員との信頼関係を築き、生徒がより良い学校をつくらうとする意識を醸成する。
教育課程	併設型小・中学校として、新学習指導要領の趣旨に沿った9年間を見通した柔軟な教育課程について、小学校と連携しながら研究を進める。	・ブロック合同教科主任会を2回以上実施し、こども像に迫る手だて(学び方の確立)と小中一貫カリキュラムの策定を行う。 ・ブロック合同担当者会を通して、3校の行事計画を確認するとともに、学校教育目標と9年間で育てる子ども像の具現化を目指した学校行事の計画に向けて、保護者向けのアンケートを実施し分析を行う。
特別支援教育	特別な支援を要する生徒について教職員の共通理解を図り、家庭との連携を深め、学校生活の様々な場面で、個々の特性や状態に応じた指導に努める。	・引き続き、特別な支援を必要とする生徒の「個別の支援・指導計画」の作成について研修会を開く。 ・別室登校の生徒の「見立ての期間」を設け、観察・評価をしてアセスメント・支援計画を(簡単に)作成して、教材や活動の充実を図る。
学校運営協議会・地域連携	教育活動について積極的に発信し、保護者や地域住民からの理解と信頼を高めるとともに、地域と連携・協力を密にし、生徒の地域での活動を進める。	・合同学校運営協議会で、「9年間で育てる子ども像」に基づいて「身に付けたい資質・能力」を検討すると共に、「9年間一貫した学び方の確立」を策定する。 ・地域コーディネーターと協働して、学習支援や様々な活動支援を展開する。 ・引き続き、学校だよりやホームページで学校の状況を発信すると共に、生徒の地域活動への参加を促す。
いじめへの対応	全ての生徒が、安心して過ごせる環境をつくるために、生徒一人ひとりの心情に寄り添った生徒理解と生徒指導の充実を図る。	・高田中学校のいじめ防止基本方針の周知に努め、いじめ防止に向けて、学校・家庭・地域が連携できるようにする。 ・休み時間や放課後を活用し、教育相談活動の充実を図り、生徒の細やかな変化に気づき、いじめの早期発見へとつなげる。
人材育成・組織運営	人材育成の視点を重視した組織編成を進め、若手職員、中堅職員を組織のリーダーとして起用し、更なる組織の活性化を図る。	・キャリアステージに応じた人材育成の目標設定を全員が行い、組織として人材育成に取り組む。 ・学年会・指導部会でのOJTを計画的に行う。 ・メンターチームによる研修を年間3回以上行う。 ・キャリアステージに応じた組織編成を行い、人材育成を行うとともに、効率的な組織運営を図る。